

目次	会務報告	299
	第20回青空地衣教室（神奈川県箱根町）の報告／木下靖浩・安斉唯夫	299
	第20回青空地衣教室（箱根）で観察された地衣類／木下靖浩・原田浩	300
	青空地衣教室（箱根）に参加して／東あずさ	301
	学术交流委員会から	301
	自然史学会連合報告（2007年度）／原田浩	301

会務報告 Reports of the JSL Activities

第20回青空地衣教室（神奈川県箱根町）の報告

Report of the 20th Outdoor School on Lichens at Hakone, Kanagawa-ken / Kinoshita Y. & Anzai T.

木下靖浩・安斉唯夫：地域活性化委員会関東

神奈川県箱根町において第20回青空地衣教室が開催されましたので、報告いたします。

* * *

開催日：2007年5月19日（土）

開催場所：神奈川県足柄郡箱根町やすらぎの森

講師：木下靖浩（神奈川県横浜市）

参加者：15名（講師を含む）

* * *

箱根町やすらぎの森での青空地衣教室は2002年にも開催しており、今回は5年ぶりの開催となりました。

前回は2月に開催したところ運悪く雪の降る天気となってしまう、ふるえながらの観察でしたが、今回は午前中の雨が観察会開始頃にはすっかりあがり、さわやかな天候の下での観察会となりました。

今回も町営駐車場横の石垣に生えたヤマトキゴ

ケやヒメジヨウゴゴケなどから観察を始めましたが、いつもの青空地衣教室と同様、なかなか次の観察場所に動くことなく、その先の民家の石垣のコバノアオキノリやチヂレツメゴケなどを見ているうちにどンドン時間が



図1. ようやく「やすらぎの森」に到着した参加者。

過ぎ、メインの観察場所であるやすらぎの森に着いたときには既に一時間以上が経っていました（図1）。

さすがに5年も経つと前回に見られた石垣の上のハナゴケ属地衣がすっかり無くなっていたり、表紙を飾ったキウメノキゴケのコロニーが大きくなる一方中心部が崩れていたり、成長の遅い地衣でも変化が認められました。しかしながらハコネゴンゲンゴケなど大部分の地衣は以前と変わらずに観察でき、今回も多数の地衣種

を観察することができました。

予定の16時にいったん解散とした後、さらに有志で1時間、結局閉園の17時まで、地衣を楽しんだ午後となりました。

今回の開催に当たっては、神奈川県立生命の星・地球博物館の出川さんから青空地衣教室の宣伝をしていただき、多くの方に参加していただくことができました。ありがとうございました。

第20回青空地衣教室（箱根）で観察された地衣類

Lichens observed during the 20th Outdoor School on Lichens at Hakone, Kanagawa-ken / Kinoshita Y. & Harada H.

木下靖浩*・原田 浩**：*地域活性化委員会関東・**千葉県立中央博物館

以下に示すリストは、やすらぎの森（神奈川県箱根町）周辺で開催された標記観察会（2007年5月19日）のときに、現地で同定した地衣類、あるいはその前後に撮影した写真を、後日同定した結果をまとめたものである。

* * *

樹状

<i>Cladonia coniocraea</i>	ヤリノホゴケ
<i>Cladonia humilis</i>	ヒメジョウゴゴケ
<i>Cladonia macilentata</i>	コアカミゴケ
<i>Cladonia ramulosa</i>	ヒメレンゲゴケ
<i>Ramalina commixta</i>	ニセカラタチゴケ
<i>Stereocaulon exutum</i>	キゴケ
<i>Stereocaulon japonicum</i>	ヤマトキゴケ
<i>Stereocaulon soreliiferum</i>	オオキゴケ

葉状

<i>Flavoparmelia caperata</i>	キウメノキゴケ
<i>Heterodermia japonica</i>	クロアシゲジゲジゴケ
<i>Heterodermia obscurata</i>	キウラゲジゲジゴケ
<i>Hypotrachyna incognita</i>	イコマゴケモドキ
<i>Hypotrachyna osseoalba</i>	ゴンゲンゴケ

<i>Hypotrachyna revoluta</i>	ハコネゴンゲンゴケ
<i>Leptogium moluccanum</i> var. <i>myriophyllum</i>	
	コバノアオキノリ
<i>Menegazzia subsimilis</i>	センシゴケの仲間
<i>Myelochroa irrugans</i>	ウチキウメノキゴケ
<i>Parmelinopsis spumosa</i>	コナヒメウメノキゴケ
<i>Parmelinopsis minarum</i>	トゲウメノキゴケ
<i>Peltigera praetextata</i>	チヂレツメゴケ
<i>Peltigera pruinosa</i>	コフキツメゴケ
<i>Rimelia clavulifera</i>	マツゲゴケ

痂状

<i>Caloplaca flavorubescens</i>	ダイダイゴケ
Gomphillaceae	ヒゲゴケ科
Graphidaceae	モジゴケ科
<i>Lecanora megalocheila</i>	レカノラ メガロケイラ（チャシブゴケ属）
<i>Ochrolechia trochophora</i>	クサビラゴケ
<i>Pertusaria multipuncta</i>	オオカノコゴケ
<i>Porpidia albocaerulescens</i>	ヘリトリゴケ
<i>Pyrenula japonica</i>	サネゴケ

青空地衣教室（箱根）に参加して

My experiences at the 20th Outdoor School on Lichens at Hakone, Kanagawa-ken, central Japan, May 2007 / by HIGASHI Azusa

東あずさ：千葉県市原市

青空地衣教室に参加したのは、これが2回目です。前回は、雪の赤城山でした。この時は「地衣類は、こんな風に木に付いているのか」というのが主な印象で、全く見分けが付きませんでした。

今回は「ウメノキゴケとマツゲゴケなら分かると思う」という実力(?)での参加です。せっかく箱根に行くのだから「ハコネゴンゲンゴケ」は覚えて帰りたいと思っていました。

観察会では、「キウラゲジゲジゴケ」や「ヒゲゴケ」など、初めて見る地衣類も多く、名前の通りの形をしていることに感動しました。また、「ヒメジョウウゴゴケ」と「ヤリノホゴケ」が一緒に生えている所はとてもかわいらしく、写真を撮る時には周りの方に、明るさや角度などをアドバイスしていただきました。(おかげで素敵な写真が撮れました。ありがとうございました!→図1)

そして「ハコネゴンゲンゴケ」は、非常にきれいな円形のものを見ることができました。しかし残念ながら

ら、見分けが付くところまではいきませんでした。なぜなら「タカハシウメノキゴケ」など、さらに新しい名前が加わって混乱状態になってしまったからです。

こんな物覚えの悪い参加者ではありましたが、非常に楽しい観察会でした。また機会がありましたら参加させて頂きたいと思います。先生方や周りの方々、分かりやすく教えてくださりありがとうございました。



図1. ヒメジョウウゴゴケとヤリノホゴケ。

学術交流委員会から

From Committee of Collaborative Research

自然史学会連合報告(2007年度)

Report from the Union of Japanese Societies for Natural History (2007) / by HARADA Hiroshi

原田 浩：千葉県立中央博物館

2007年度の総会が国立科学博物館新宿分館において、昨年12月16日に開催されたので、報告する。

* * *

1. 報告事項

1) 講演会: 11月25日、琵琶湖博物館において、「いきもの・ひと・みずの自然史」のタイトルの下、様々な分野から計10名の演招き、いわゆるオムニバス方式で

開催された。今回はポスターと要旨集の印刷について、ロレックス・インスティテュートの補助を受けた。この補助は、ロレックス賞の日本における認知を図るためであるという。この賞の対象分野には科学・環境なども含まれており、現在プロジェクトを進行させている人々を支援するために設けられたのだが、日本からの応募が少ないので、自然史学会連合の講演会を支援することで、ロレックス賞を当該分野の研究者の側に周知していきたいということのようである。ご興味をお持ちの方は、ホームページ (<http://www.rolexawards.jp/>) をごらんいただきたい。

2) 環境省生物多様性国家戦略パブリックコメント。環境省による「第3次生物多様性国家戦略案」に対し、連合として意見書を提出した。

3) 博物館部会。ほとんど進展無し。

4) ホームページ。更新を行った。デザインを一新する予定。

5) その他。

2. 審議事項

1) 2) 3) 4) 2006年度の会計決算報告・承認、

監査報告・承認、2007年度会計経過報告、2008年度予算案説明を行った。

5) 2008~2009年度代表選挙。信任投票が行われ、全会一致で、西田治文氏(日本植物分類学会、中央大学)が代表に再選された。

6) 運営委員等の選出。各学会の代表7名(委員会が選ぶ)として、藤井伸二(種生物学会、人間環境大学)・出川洋介(日本菌学会)・海部陽介(日本人類学会)・山田敏弘(日本植物学会)・齋木健一(日本地質学会)の5氏が留任、池田重人(日本花粉学会)・池澤広美(日本動物分類学会)の2氏が新たに加わった。代表推薦枠として、佐々木猛智(東京大学)・野村周平(国立科学博物館)の留任2氏に加え、原田(千葉県立中央博物館)の計3名が代表から推薦され、了承された。原田は事務局を担当する予定である。監査役員は、清水晃(日本昆虫学会)と西海功(日本鳥学会)の2氏に交代することとなった。

7) 来年度の予定。連合最大のイベントである講演会は、千葉県立中央博物館で開催されることが決定した。日程は例年通り11月頃となる見込みである。

8) その他。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 83, pp. 299-302: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 28 December 2007.

日本地衣学会ニュースレター 83号

発行日：2007年 12月 28日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2007 日本地衣学会 (© 2007 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。